

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

消化管運動機能改善剤

日本薬局方 モサプリドクエン酸塩錠 モサプリドクエン酸塩錠2.5mg「JG」 モサプリドクエン酸塩錠5mg「JG」

Mosapride Citrate Tablets

剤形	錠剤（フィルムコーティング錠）
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	錠 2.5mg：1錠中 モサプリドクエン酸塩水和物 2.645mg 含有 （モサプリドクエン酸塩として2.5mg） 錠 5mg：1錠中 モサプリドクエン酸塩水和物 5.29mg 含有 （モサプリドクエン酸塩として5mg）
一般名	和名：モサプリドクエン酸塩水和物（JAN） 洋名：Mosapride Citrate Hydrate（JAN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造販売承認年月日：2012年8月15日 薬価基準収載年月日：2012年12月14日 発売年月日：2012年12月14日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：日本ジェネリック株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日本ジェネリック株式会社 お客様相談室 受付時間：9時～18時（土、日、祝日を除く） TEL 0120 - 893 - 170 FAX 0120 - 893 - 172 医療関係者向けホームページ： http://www.nihon-generic.co.jp/medical/index.html

本IFは2020年9月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更に合わせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)ホームページ「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>) から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する PMDA ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。

③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

【IF の作成】

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「IF 記載要領 2013」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

【IF の発行】

- ①「IF 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の IF については、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」に掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」で確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

目次

I. 概要に関する項目	1	13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	13
1. 開発の経緯	1	14. その他	13
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1		
II. 名称に関する項目	2	V. 治療に関する項目	14
1. 販売名	2	1. 効能又は効果	14
(1)和名	2	2. 用法及び用量	14
(2)洋名	2	3. 臨床成績	14
(3)名称の由来	2	(1)臨床データパッケージ	14
2. 一般名	2	(2)臨床効果	14
(1)和名(命名法)	2	(3)臨床薬理試験	14
(2)洋名(命名法)	2	(4)探索的試験	14
(3)ステム	2	(5)検証的試験	14
3. 構造式又は示性式	2	1)無作為化並行用量反応試験	14
4. 分子式及び分子量	2	2)比較試験	14
5. 化学名(命名法)	2	3)安全性試験	14
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	4)患者・病態別試験	15
7. CAS登録番号	2	(6)治療の使用	15
III. 有効成分に関する項目	4	1)使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)	15
1. 物理化学的性質	4	2)承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要	15
(1)外観・性状	4		
(2)溶解性	4	VI. 薬効薬理に関する項目	16
(3)吸湿性	4	1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	16
(4)融点(分解点)、沸点、凝固点	4	2. 薬理作用	16
(5)酸塩基解離定数	4	(1)作用部位・作用機序	16
(6)分配係数	4	(2)薬効を裏付ける試験成績	16
(7)その他の主な示性値	4	(3)作用発現時間・持続時間	16
2. 有効成分の各種条件下における安定性	4		
3. 有効成分の確認試験法	4	VII. 薬物動態に関する項目	17
4. 有効成分の定量法	4	1. 血中濃度の推移・測定法	17
IV. 製剤に関する項目	5	(1)治療上有効な血中濃度	17
1. 剤形	5	(2)最高血中濃度到達時間	17
(1)剤形の区別、外観及び性状	5	(3)臨床試験で確認された血中濃度	17
(2)製剤の物性	5	(4)中毒域	18
(3)識別コード	5	(5)食事・併用薬の影響	18
(4)pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等	5	(6)母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因	18
2. 製剤の組成	5	2. 薬物速度論的パラメータ	18
(1)有効成分(活性成分)の含量	5	(1)解析方法	18
(2)添加物	5	(2)吸収速度定数	18
(3)その他	5	(3)バイオアベイラビリティ	18
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	5	(4)消失速度定数	18
4. 製剤の各種条件下における安定性	6	(5)クリアランス	18
5. 調製法及び溶解後の安定性	8	(6)分布容積	18
6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)	8	(7)血漿蛋白結合率	18
7. 溶出性	9	3. 吸収	19
8. 生物学的試験法	12	4. 分布	19
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	12	(1)血液-脳関門通過性	19
10. 製剤中の有効成分の定量法	12	(2)血液-胎盤関門通過性	19
11. 力価	12	(3)乳汁への移行性	19
12. 混入する可能性のある夾雑物	13		

(4)髄液への移行性	19	2. 毒性試験	25
(5)その他の組織への移行性	19	(1)単回投与毒性試験	25
5. 代謝	19	(2)反復投与毒性試験	25
(1)代謝部位及び代謝経路	19	(3)生殖発生毒性試験	25
(2)代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の 分子種	19	(4)その他の特殊毒性	25
(3)初回通過効果の有無及びその割合	19	X. 管理的事項に関する項目	26
(4)代謝物の活性の有無及び比率	19	1. 規制区分	26
(5)活性代謝物の速度論的パラメータ	19	2. 有効期間又は使用期限	26
6. 排泄	19	3. 貯法・保存条件	26
(1)排泄部位及び経路	19	4. 薬剤取扱い上の注意点	26
(2)排泄率	19	(1)薬局での取扱い上の留意点について	26
(3)排泄速度	19	(2)薬剤交付時の取扱いについて (患者等に 留意すべき必須事項等)	26
7. トランスポーターに関する情報	19	(3)調剤時の留意点について	26
8. 透析等による除去率	20	5. 承認条件等	26
VIII. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目	21	6. 包装	26
1. 警告内容とその理由	21	7. 容器の材質	26
2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)	21	8. 同一成分・同効薬	26
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意と その理由	21	9. 国際誕生年月日	27
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意と その理由	21	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	27
5. 慎重投与内容とその理由	21	11. 薬価基準収載年月日	27
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	21	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追 加等の年月日及びその内容	27
7. 相互作用	21	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及び その内容	27
(1)併用禁忌とその理由	21	14. 再審査期間	27
(2)併用注意とその理由	22	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	27
8. 副作用	22	16. 各種コード	27
(1)副作用の概要	22	17. 保険給付上の注意	27
(2)重大な副作用と初期症状	22	X I. 文献	28
(3)その他の副作用	22	1. 引用文献	28
(4)項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異 常一覧	23	2. その他の参考文献	28
(5)基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有 無等背景別の副作用発現頻度	23	X II. 参考資料	29
(6)薬物アレルギーに対する注意及び試験法	23	1. 主な外国での発売状況	29
9. 高齢者への投与	23	2. 海外における臨床支援情報	29
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	23	X III. 備考	30
11. 小児等への投与	23	1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行う にあたっての参考情報	30
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	23	(1)	30
13. 過量投与	23	1)粉砕	30
14. 適用上の注意	23	2)崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの 通過性	31
15. その他の注意	23	2. その他の関連資料	31
16. その他	24		
IX. 非臨床試験に関する項目	25		
1. 薬理試験	25		
(1)薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する 項目」参照)	25		
(2)副次的薬理試験	25		
(3)安全性薬理試験	25		
(4)その他の薬理試験	25		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」及びモサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」は、モサプリドクエン酸塩水和物を含有する消化管運動機能改善剤である。

モサプリドクエン酸塩水和物は、胃腸機能調整を目的に開発された選択的セロトニン 5-HT₄ 受容体作用薬である。¹⁾

本邦では、1998 年に発売されている。

本剤は日本ジェネリック株式会社が後発医薬品として開発を企画し、「医薬品の承認申請について（平成 17 年 3 月 31 日 薬食発第 0331015 号）」に基づき、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、製造販売承認申請し、2012 年 8 月に製造販売承認を得て、2012 年 12 月に販売開始した。

2020 年 9 月には「経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸 X 線造影検査前処置の補助」の効能・効果及び用法・用量が追加された。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

(1) 錠 5mg は、分割性を考慮した割線入りの錠剤である。

(2) 消化管のコリン作用神経にある 5-HT₄ 受容体を刺激して ACh 遊離が増大し、消化管運動や胃排出が亢進する。²⁾

(3) ベンズアミド構造をもつが、ドパミン D₂ 受容体拮抗作用がない。²⁾

(4) 重大な副作用として、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸が報告されている（全て頻度不明）。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

- ・モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg 「JG」
- ・モサプリドクエン酸塩錠 5mg 「JG」

(2) 洋名

- ・Mosapride Citrate Tablets 2.5mg “JG”
- ・Mosapride Citrate Tablets 5mg “JG”

(3) 名称の由来

「一般的名称」 + 「剤形」 + 「含量」 + 「屋号」 より命名

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

モサプリドクエン酸塩水和物 (JAN)

(2) 洋名 (命名法)

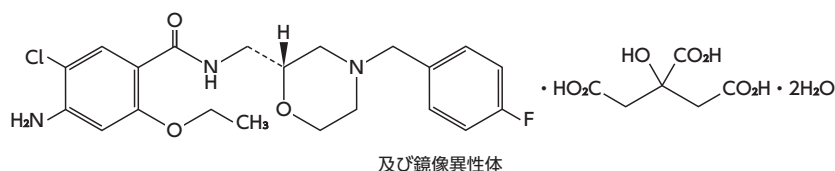
Mosapride Citrate Hydrate (JAN)

Mosapride (INN)

(3) ステム

スルピリド誘導体：-pride

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式： $C_{21}H_{25}ClFN_3O_3 \cdot C_6H_8O_7 \cdot 2H_2O$

分子量：650.05

5. 化学名 (命名法)

4-Amino-5-chloro-2-ethoxy-*N*-{ [(2*RS*)-4-(4-fluorobenzyl)morpholin-2-yl]methyl} benzamide monocitrate dihydrate (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

別名：クエン酸モサプリド

7. CAS 登録番号

636582-62-2 (Mosapride Citrate Hydrate)

112885-41-3 (Mosapride)

III. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色～帯黄白色の結晶性の粉末である。

(2) 溶解性

N,N-ジメチルホルムアミド又は酢酸（100）に溶けやすく、メタノールにやや溶けにくく、エタノール（99.5）に溶けにくく、水にほとんど溶けない。

溶解度 ³⁾ (37°C)	pH1.2 : 0.152mg/mL pH4.0 : 0.246mg/mL pH6.8 : 0.002mg/mL 水 : 1.62mg/mL
-----------------------------	---

(3) 吸湿性

25°C、11～98%RH で5週間放置し、重量変化を観察した。いずれの相対湿度においても重量変化はなく、吸湿性は認められなかった。なお、低湿度化においても重量減少は少なく、結晶水の脱離は認められなかった。⁴⁾

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

pKa : 6.20（モルホリン環、滴定法）³⁾

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

N,N-ジメチルホルムアミド溶液（1→20）は旋光性を示さない。

2. 有効成分の各種条件下における安定性³⁾

安定性	水	37°C、24時間は安定である。
	液性（pH）	pH1.2、pH4.0及びpH6.8において、37°C、24時間は安定である。

3. 有効成分の確認試験法

日局「モサプリドクエン酸塩水和物」の確認試験による。

- (1) 紫外可視吸光度測定法
- (2) 赤外吸収スペクトル測定法（臭化カリウム錠剤法）
- (3) クエン酸塩の定性反応（1）

4. 有効成分の定量法

日局「モサプリドクエン酸塩水和物」の定量法による。


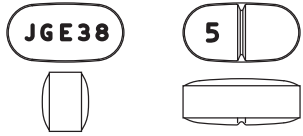
電位差滴定法

0.1 mol/L 過塩素酸 1mL = 61.40mg C₂₁H₂₅ClFN₃O₃・C₆H₈O₇

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

販売名	モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」	モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」
色・剤形	白色のフィルムコーティング錠	白色の割線入りフィルムコーティング錠
外形		
大きさ (mm)	直径：6.1 厚さ：2.6	直径：9.1 短径：4.6 厚さ：3.6
重量 (mg)	78	155

(2) 製剤の物性

該当資料なし

(3) 識別コード

- モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」
錠剤本体ならびに PTP シート上に記載：JG E37
- モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」
錠剤本体ならびに PTP シート上に記載：JG E38

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

- モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」
1 錠中 モサプリドクエン酸塩水和物 2.645mg 含有
(モサプリドクエン酸塩として 2.5mg)
- モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」
1 錠中 モサプリドクエン酸塩水和物 5.29mg 含有
(モサプリドクエン酸塩として 5mg)

(2) 添加物

- モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」及びモサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」
D-マンニトール、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、軽質無水ケイ酸、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール 6000、酸化チタン、タルク

(3) その他

該当しない

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg 「JG」

◎ 加速試験⁵⁾

包装形態：PTP/アルミピロー包装

保存条件：40±1℃/75±5%RH

保存期間：6 ヶ月

試験項目：性状、確認試験、純度試験、溶出試験、定量試験

試験項目	性状	確認試験		純度試験	溶出試験 (%)	定量試験 (%)
規格	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
試験開始時	適合	適合	適合	適合	92	99.5
1 ヶ月後	適合	—	—	適合	96	99.3
3 ヶ月後	適合	—	—	適合	93	100.1
6 ヶ月後	適合	適合	適合	適合	93	99.4

(1) 白色のフィルムコーティング錠である

(2) ドラージェンドルフ試液による沈澱反応：だいだい色の沈澱を生じる

(3) 紫外可視吸光度測定法：波長 271～275nm 及び 306～310nm に吸収の極大を示す

(4) 試料溶液のモサプリドに対する相対保持時間約 0.60 及び約 0.85 のピーク面積は、標準溶液のモサプリドのピーク面積より小さくなく、モサプリド及び上記のピーク以外のピークの面積は、標準溶液のモサプリドのピーク面積の 2/5 より大きくない。また、試料溶液のモサプリド以外のピークの合計面積は、標準溶液のモサプリドのピーク面積の 2 倍より大きくない

(5) 45 分間、80%以上（溶出試験第 2 液 900mL、パドル法、50rpm）

(6) 表示量の 95.0～105.0%

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

◎ 無包装状態での安定性試験⁶⁾

試験条件：①温度に対する安定性試験：40℃、3 ヶ月（遮光・気密容器）

②湿度に対する安定性試験：25℃/75%RH、3 ヶ月（遮光・開放）

③光に対する安定性試験：総照度 120 万 lux・hr（気密容器）

試験項目：性状、溶出試験、定量試験、硬度

試験項目		性状	溶出試験 (%)	定量試験 (%)	硬度 (N)
規格		(1)	(2)	(3)	(4)
試験開始時		適合	95	102.4	37
①温度	3 ヶ月後	適合	変化なし	変化なし	変化なし
②湿度	3 ヶ月後	適合	変化なし	変化なし	変化あり (17)

試験項目		性状	溶出試験 (%)	定量試験 (%)	硬度 (N)
規格		(1)	(2)	(3)	(4)
③光	120 万 lux・hr	適合	変化なし	変化なし	変化あり (25)

(1) 白色のフィルムコーティング錠である

(2) 45 分間、80%以上 (溶出試験第 2 液 900mL、パドル法、50rpm)

(3) 表示量の 95.0~105.0%

(4) 参考値 (下記答申では、硬度変化が 30%以上で、硬度が 2.0kg 重 (19.6N) 未満の場合、変化あり (規格外) とされている。)

安定性の評価は「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について (答申) 平成 11 年 8 月 20 日」に記載された各試験項目の評価基準に従った。

モサプリドクエン酸塩錠 5mg 「JG」

◎ 加速試験⁷⁾

包装形態：① PTP/アルミピロー包装

② バラ包装

保存条件：40±1℃/75±5%RH

保存期間：6 ヶ月

試験項目：性状、確認試験、純度試験、溶出試験、定量試験

① PTP/アルミピロー包装

試験項目	性状	確認試験		純度試験	溶出試験 (%)	定量試験 (%)
		(2)	(3)			
規格	(1)	(2)	(3)	(4)	(6)	(7)
試験開始時	適合	適合	適合	適合	87	100.7
1 ヶ月後	適合	—	—	適合	90	100.9
3 ヶ月後	適合	—	—	適合	91	100.4
6 ヶ月後	適合	適合	適合	適合	88	100.4

② バラ包装

試験項目	性状	確認試験		純度試験	溶出試験 (%)	定量試験 (%)
		(2)	(3)			
規格	(1)	(2)	(3)	(4)	(6)	(7)
試験開始時	適合	適合	適合	適合	87	100.7
1 ヶ月後	適合	—	—	適合	90	100.5
3 ヶ月後	適合	—	—	適合	91	100.4
6 ヶ月後	適合	適合	適合	適合	88	101.0

(1) 白色の割線入りフィルムコーティング錠である

(2) ドラーゲンドルフ試液による沈澱反応：だいだい色の沈澱を生じる

(3) 紫外可視吸光度測定法：波長 271~275nm 及び 306~310nm に吸収の極大を示す

- (4) 試料溶液のモサプリドに対する相対保持時間約 0.60 及び約 0.85 のピーク面積は、標準溶液のモサプリドのピーク面積より大きくなく、モサプリド及び上記のピーク以外のピークの面積は、標準溶液のモサプリドのピーク面積の 2/5 より大きくない。また、試料溶液のモサプリド以外のピークの合計面積は、標準溶液のモサプリドのピーク面積の 2 倍より大きくない
- (5) 45 分間、80%以上（溶出試験第 2 液 900mL、パドル法、50rpm）
- (6) 表示量の 95.0~105.0%

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

◎ 無包装状態での安定性試験⁸⁾

試験条件：①温度に対する安定性試験：40℃、3 ヶ月（遮光・気密容器）

②湿度に対する安定性試験：25℃/75%RH、3 ヶ月（遮光・開放）

③光に対する安定性試験：総照度 120 万 lux・hr（気密容器）

試験項目：性状、溶出試験、定量試験、硬度

試験項目		性状	溶出試験 (%)	定量試験 (%)	硬度 (N)
規格		(1)	(2)	(3)	(4)
試験開始時		適合	92	101.9	122
①温度	3 ヶ月後	適合	変化なし	変化なし	変化なし
②湿度	3 ヶ月後	適合	変化なし	変化なし	変化あり (規格外)
③光	120 万 lux・hr	適合	変化なし	変化なし	変化あり (規格内)

(1) 白色の割線入りフィルムコーティング錠である

(2) 45 分間、80%以上（溶出試験第 2 液 900mL、パドル法、50rpm）

(3) 表示量の 95.0~105.0%

(4) 参考値（下記答申では、硬度変化が 30%以上で、硬度が 2.0kg 重（19.6N）未満の場合、変化あり（規格外）とされている。）

安定性の評価は「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について（答申）平成 11 年 8 月 20 日」に記載された各試験項目の評価基準に従った。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

7. 溶出性

【溶出挙動の同等性又は類似性】

モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」⁹⁾

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン（平成9年12月22日 付医薬審第487号、一部改正 平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号）、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン（平成12年2月14日 医薬審第64号、一部改正 平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号別紙2）」に従う。

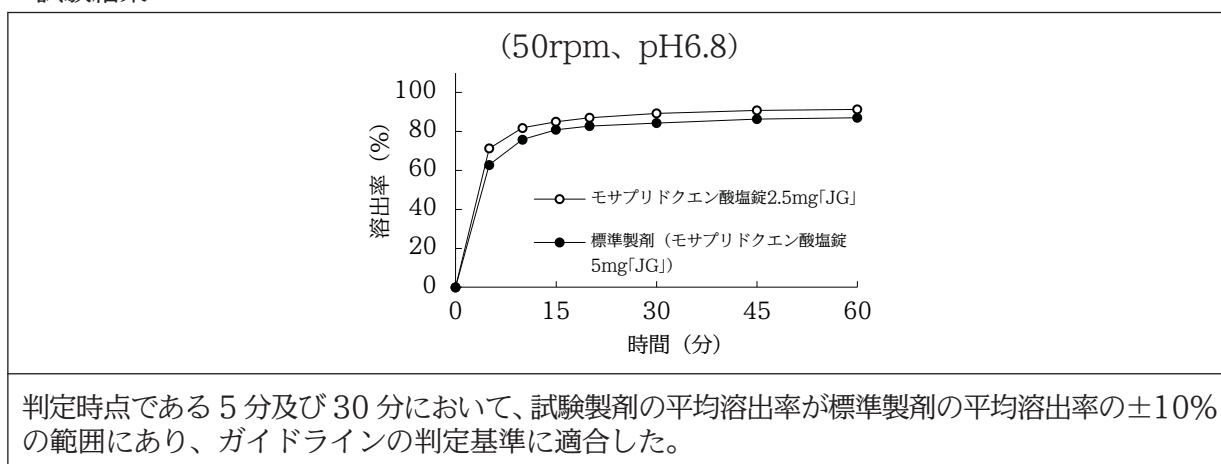
- ・ 標準製剤：モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」
- ・ 処方変更水準：A 水準

試験方法	日本薬局方 一般試験法溶出試験法（パドル法）			
試験条件	回転数/試験液	50rpm	pH6.8	日本薬局方 溶出試験第2液
	試験液量：900mL 試験回数：12 ベッセル			
分析法	液体クロマトグラフィー			

・ 判定基準

回転数 (rpm)	試験液	判定基準
50	pH6.8	<p>(1) 平均溶出率 標準製剤の平均溶出率が85%以上となる時、標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあるか、又はf2関数の値は50以上である。</p> <p>(2) 個々の溶出率 試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。</p>

・ 試験結果



溶出挙動の同等性の判定（平均溶出率）

回転数 (rpm)	試験液	判定時点 (min)	平均溶出率 (%)		判定
			標準製剤(モサプリドクエン酸塩錠 5m「JG」)	モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」	
50	pH6.8	5	62.8	71.3	適合
		30	84.2	89.2	

溶出挙動の同等性の判定（個々の溶出率）

回転数 (rpm)	試験液	判定時点 (min)	個々の溶出率 (%)	平均溶出率との差		判定
			最小値～最大値	±15%超	±25%超	
50	pH6.8	30	84.8～91.2	0 個	0 個	適合

・ 結論

試験製剤と標準製剤の溶出挙動の同等性を判定したところ、いずれの試験条件においても「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合していた。以上より、両製剤は生物学的に同等とみなされた。

モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」¹⁰⁾

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン（平成 9 年 12 月 22 日付医薬審第 487 号、一部改正 平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号）」に従う。

試験方法	日本薬局方 一般試験法溶出試験法（パドル法）			
試験条件	回転数/試験液	50rpm	pH1.2	日本薬局方 溶出試験第 1 液
			pH3.0	薄めた McIlvaine の緩衝液
			pH6.8	日本薬局方 溶出試験第 2 液
			水	日本薬局方 精製水
	100rpm	pH6.8	日本薬局方 溶出試験第 2 液	
試験液量：900mL 試験回数：12 ベッセル				
分析法	液体クロマトグラフィー			

・ 判定基準

回転数 (rpm)	試験液	判定基準
50	pH1.2	試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。
	pH3.0	
	水	
	pH6.8	標準製剤の平均溶出率が 60%及び 85%付近となる適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f2 関数の値が 42 以上である。
100	pH6.8	試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

・試験結果

<p>(50rpm、pH1.2)</p> <p>Legend: ○ Mosapride hydrochloride 5mg [JG], ● Reference preparation (excipient, 5mg)</p>	<p>(50rpm、pH3.0)</p> <p>Legend: ○ Mosapride hydrochloride 5mg [JG], ● Reference preparation (excipient, 5mg)</p>
<p>判定時点である 15 分において、試験製剤が平均 85%以上溶出し、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>	<p>判定時点である 15 分において、試験製剤が平均 85%以上溶出し、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>
<p>(50rpm、pH6.8)</p> <p>Legend: ○ Mosapride hydrochloride 5mg [JG], ● Reference preparation (excipient, 5mg)</p>	<p>(50rpm、水)</p> <p>Legend: ○ Mosapride hydrochloride 5mg [JG], ● Reference preparation (excipient, 5mg)</p>
<p>判定時点である 5 分及び 30 分において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率の ±15%の範囲にあり、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>	<p>判定時点である 15 分において、試験製剤が平均 85%以上溶出し、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>
<p>(100rpm、pH6.8)</p> <p>Legend: ○ Mosapride hydrochloride 5mg [JG], ● Reference preparation (excipient, 5mg)</p>	
<p>判定時点である 15 分において、試験製剤が平均 85%以上溶出し、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>	

溶出挙動の類似性の判定（平均溶出率）

回転数 (rpm)	試験液	判定 時点 (min)	平均溶出率 (%)		判定
			標準製剤 (錠剤、5mg)	モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」	
50	pH1.2	15	101.1	100.4	適合
	pH3.0	15	99.2	99.7	適合
	pH6.8	5	59.0	62.8	適合
		30	84.8	84.2	
	水	15	91.5	89.8	適合
100	pH6.8	15	84.8	91.0	適合

・ 結論

標準製剤と試験製剤の平均溶出率を比較したところ、いずれの試験条件においても「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合していた。

以上より、標準製剤と試験製剤の溶出挙動の類似性が確認された。

【公的溶出規格への適合性】

モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」及びモサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」は、日本薬局方医薬品各条に定められたモサプリドクエン酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

試験方法	日局 一般試験法溶出試験法（パドル法）
試験条件	回転数：50rpm 試験液：日本薬局法 溶出試験第2液 試験液量：900mL
分析法	液体クロマトグラフィー
溶出規格	45分間、80%以上

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

日局「モサプリドクエン酸塩錠」の確認試験による。

- (1) ドラーゲンドルフ試液による沈澱反応
- (2) 紫外可視吸光度測定法

10. 製剤中の有効成分の定量法

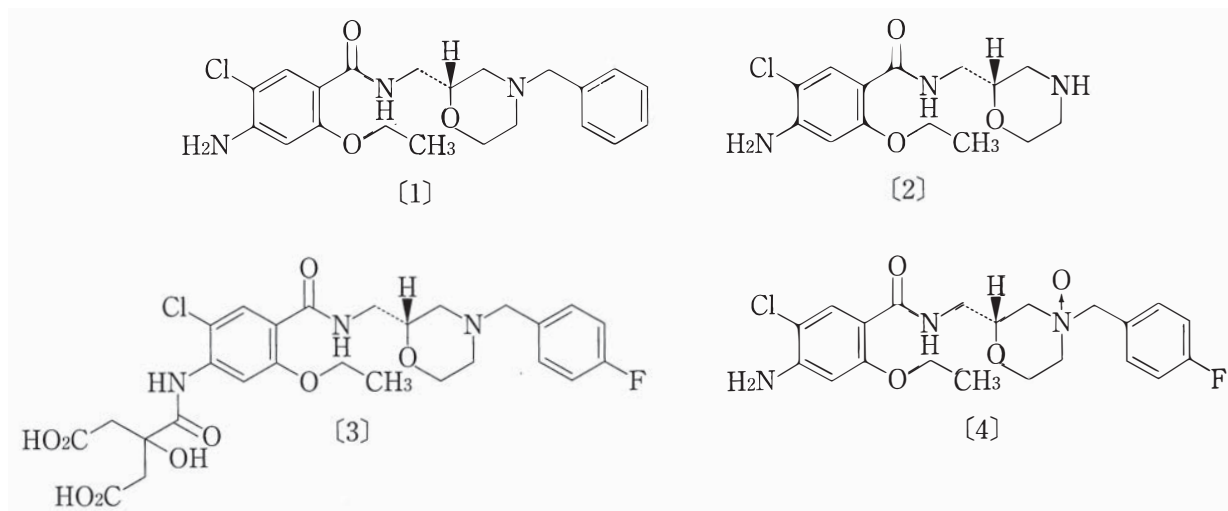
日局「モサプリドクエン酸塩錠」の定量法による。

紫外可視吸光度測定法

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物¹⁾



13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

- 慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ、悪心・嘔吐）
- 経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸 X 線造影検査前処置の補助

〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸 X 線造影検査前処置の補助の場合

塩化ナトリウム、塩化カリウム、炭酸水素ナトリウム及び無水硫酸ナトリウム含有経口腸管洗浄剤（ニフレック配合内用剤）以外の経口腸管洗浄剤との併用による臨床試験は実施されていない。

2. 用法及び用量

- 慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ、悪心・嘔吐）
通常、成人には、モサプリドクエン酸塩として1日15mgを3回に分けて食前または食後に経口投与する。
- 経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸 X 線造影検査前処置の補助
通常、成人には、経口腸管洗浄剤の投与開始時にモサプリドクエン酸塩として20mgを経口腸管洗浄剤（約180mL）で経口投与する。また、経口腸管洗浄剤投与終了後、モサプリドクエン酸塩として20mgを少量の水で経口投与する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸 X 線造影検査前処置の補助の場合

経口腸管洗浄剤の「用法・用量」及び「用法・用量に関連する使用上の注意」を必ず確認すること。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

メトクロプラミド、ドンペリドン、トリメブチンマレイン酸塩、イトプリド塩酸塩 等

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

選択的セロトニン 5-HT₄ 受容体作用薬。消化管壁内神経叢に存在する 5-HT₄ 受容体を刺激し、アセチルコリン遊離の増大を介して消化管運動促進及び胃排出促進作用を示すと考えられている。¹⁾

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

健康成人男子

薬剤名	投与量	投与方法	Tmax (hr)
モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」	1錠 (モサプリドクエン酸塩として 5mg)	絶食単回 経口投与	0.8±0.4

(Mean±S.D.,n=15)

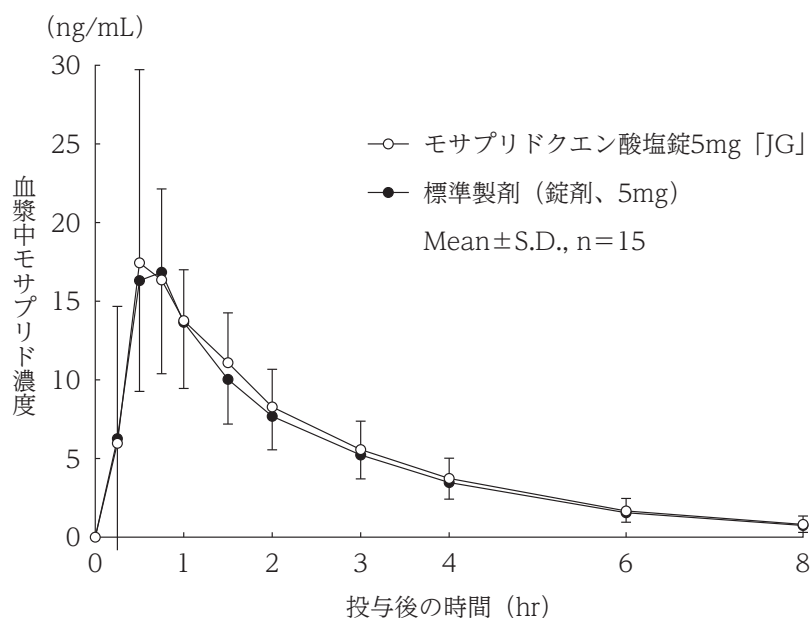
(3) 臨床試験で確認された血中濃度

【生物学的同等性試験】

モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」¹¹⁾

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン（平成9年12月22日 医薬審第487号、一部改正 平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号）」に従う。

モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれ1錠（モサプリドクエン酸塩として5mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log（0.80）～log（1.25）の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



<薬物動態パラメータ>

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₈ (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」	42.16±13.40	20.99±9.18	0.8±0.4	1.8±0.3
標準製剤 (錠剤、5mg)	40.04±10.66	20.19±6.33	0.7±0.3	1.9±0.3

(Mean±S.D.,n=15)

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

<同等性の判定結果>

	AUC ₀₋₈	Cmax
90%信頼区間	log (0.9866) ~log (1.1318)	log (0.8973) ~log (1.1992)

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

健康成人男子

薬剤名	投与量	投与方法	kel (hr ⁻¹)
モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」	1錠 (モサプリドクエン酸塩として 5mg)	絶食単回 経口投与	0.3851 ±0.0538

(Mean±S.D.,n=15)

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

血清タンパク結合率 99%¹⁾

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 -10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

主として肝臓で4-フルオロベンジル基の脱離、これにつづくモルホリン環5位の酸化及びベンゼン環3位の水酸化によって代謝される。¹⁾

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450等）の分子種

主としてCYP3A4である。¹⁾

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

尿中、糞便中⁴⁾

(2) 排泄率

健康成人に空腹時5mgを単回投与したとき、投与後48時間までの尿中排泄率は、未変化体として0.1%、主代謝物（4-フルオロベンジル基脱離体）として7%である。¹⁾

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

該当しない

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

重要な基本的注意

- (1) 本剤を慢性胃炎に伴う消化器症状に用いる際には、一定期間（通常 2 週間）投与後、消化器症状の改善について評価し、投与継続の必要性について検討すること。
- (2) 劇症肝炎や重篤な肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、長期にわたって漫然と投与しないこと。なお、本剤投与中は、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、患者に対し、本剤投与後に倦怠感、食欲不振、尿濃染、眼球結膜黄染等の症状があらわれた場合は、本剤を中止し、医師等に連絡するよう指導すること。
- (3) 本剤を経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸 X 線造影検査前処置の補助に用いる際には、経口腸管洗浄剤の添付文書に記載されている警告、禁忌、慎重投与、重要な基本的注意、重大な副作用等の使用上の注意を必ず確認すること。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗コリン作用を有する薬剤 アトロピン ブチルスコポラミン等	本剤の作用が減弱する可能性があるため、抗コリン剤を服用する場合は、服用間隔をあけるなど注意すること。	本剤の消化管運動の促進作用は、コリン作動性神経の賦活により発現するため、抗コリン剤の併用により本剤の作用が抑制される。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重大な副作用（以下、全て頻度不明）

1) 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸
 劇症肝炎、著しいAST（GOT）、ALT（GPT）、 γ -GTPの上昇等を伴う重篤な肝機能障害、黄疸があらわれることがあり、死亡に至った例もあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ、悪心・嘔吐）の場合		頻度不明
過 敏 症		浮腫、蕁麻疹、発疹
血 液		好酸球増多、白血球減少
消 化 器		下痢・軟便、口渇、腹痛、嘔気・嘔吐、味覚異常、腹部膨満感、口内しびれ感（舌、口唇等を含む）
肝 臓		ALT（GPT）の上昇、AST（GOT）の上昇、ALPの上昇、 γ -GTPの上昇、ビリルビンの上昇
循 環 器		心悸亢進
精 神 神 経 系		めまい・ふらつき、頭痛
そ の 他		倦怠感、中性脂肪の上昇、振戦
経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸 X 線造影検査前処置の補助の場合		頻度不明
消 化 器		腹部膨満感、嘔気、腹痛、胃部不快感、おくび
肝 臓		ビリルビンの上昇
精 神 神 経 系		頭痛、眠気
そ の 他		胸部不快感、寒気、倦怠感、顔面腫脹、尿潜血、尿蛋白、LDHの上昇

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 -8.副作用（3）その他の副作用「過敏症」の項参照

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では腎機能、肝機能等の生理機能が低下しているため、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。なお、慢性胃炎に伴う消化器症状に用いる際に、副作用が発現した場合には、減量（例えば1日7.5mg）するなど適切な処置を行うこと。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦または妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない]
- (2) 授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与する場合は、授乳を中止させること。[動物実験（ラット）で乳汁への移行が報告されている]

11. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない（使用経験がない）。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当しない

13. 過量投与

該当しない

14. 適用上の注意

薬剤交付時：

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている）

15. その他の注意

げっ歯類にモサプリドクエン酸塩の臨床通常用量の100～330倍（30～100mg/kg/日）を長期間経口投与した試験（ラット104週間、マウス92週間）において、腫瘍（肝細胞腺腫及び甲状腺濾胞性腫瘍）の発生率の上昇が認められたとの報告がある。

16. その他

該当しない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤	モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」 モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」	該当しない
有 効 成 分	モサプリドクエン酸塩水和物	該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

室温保存、気密容器

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取扱い上の留意点について

該当しない

(2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目-6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法及び-14. 適用上の注意」の項参照

(3) 調剤時の留意点について

該当しない

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

- ・モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」
PTP：100錠（10錠×10）
- ・モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」
PTP：100錠（10錠×10）、500錠（10錠×50）、1050錠（21錠×50）
バラ：500錠

7. 容器の材質

PTP包装：ポリ塩化ビニルフィルム、アルミニウム箔（PTP）、アルミニウム・ポリエチレンラミネートフィルム（ピロー）、紙箱
バラ包装：ポリエチレン（ボトル）、ポリプロピレン（キャップ）

8. 同一成分・同効薬

同一成分：ガスモチン®錠 2.5mg/5mg（大日本住友製薬）

同 効 薬：メトクロプラミド、ドンペリドン、トリメブチンマレイン酸塩、イトプリド塩酸塩 等

9. 国際誕生年月日

該当しない

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	製造販売承認年月日	承認番号
モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」	2012年8月15日	22400AMX01024000
モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」	2012年8月15日	22400AMX01025000

11. 薬価基準収載年月日

2012年12月14日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

販売名	内容
モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg/5mg「JG」	承認年月日：2020年9月30日 効能・効果の内容：「経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸 X 線 造影検査前処置の補助」の効能・効果を追 加した。 用法・用量の内容：「経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸 X 線 造影検査前処置の補助」に対する、用法・ 用量を追加した。

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT (9桁) 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」	122039101	2399010F1079	622203901
モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」	122040701	2399010F2075	622204001

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I . 文献

1. 引用文献

- 1) 第十七改正日本薬局方解説書、C-5558 (2016)、廣川書店
- 2) 田中千賀子、加藤隆一、成宮周編集；NEW 薬理学 (改訂第7版)、483 (2017)、南江堂
- 3) 日本版オレンジブック研究会；オレンジブック総合版 <http://www.jp-orangebook.gr.jp/index.html> (アクセス 2019/4/25)
- 4) 公益財団法人 日本薬剤師研修センター 編集：第十七改正日本薬局方医薬品情報 JPDI 2016、773 (2016)、じほう
- 5) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；
モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg 「JG」の加速試験
- 6) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；
モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg 「JG」の無包装状態の安定性試験
- 7) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；
モサプリドクエン酸塩錠 5mg 「JG」の加速試験
- 8) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；
モサプリドクエン酸塩錠 5mg 「JG」の無包装状態の安定性試験
- 9) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；
モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg 「JG」の溶出試験
- 10) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；
モサプリドクエン酸塩錠 5mg 「JG」の溶出試験
- 11) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；
モサプリドクエン酸塩錠 5mg 「JG」の生物学的同等性試験

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

該当しない

XIII. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

本項の情報に関する注意：本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示している。医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではない。

1) 粉砕

1. 保存条件

温度に対する安定性試験：40℃、4週、遮光・気密容器

湿度に対する安定性試験：25℃/75%RH、4週、遮光・開放容器

光に対する安定性試験：120万lx・hr（25℃/60%RH）、透明・気密容器

2. 試験項目

性状、含量

3. 試験結果

モサプリドクエン酸塩錠 2.5mg「JG」

		試験開始時	2週後	4週後
温度	性状	白色の粉末	変化なし	変化なし
	含量(%)	100*	99.5	98.8
湿度	性状	白色の粉末	変化なし	変化なし
	含量(%)	100*	99.3	99.0
		試験開始時	60万lx・hr	120万lx・hr
光	性状	白色の粉末	変化なし	変化なし
	含量(%)	100*	100.1	99.8

※試験開始時を100とした残存率で表示

モサプリドクエン酸塩錠 5mg「JG」

		試験開始時	2週後	4週後
温度	性状	白色の粉末	変化なし	変化なし
	含量(%)	100*	99.4	100.1
湿度	性状	白色の粉末	変化なし	変化なし
	含量(%)	100*	101.0	99.8
		試験開始時	60万lx・hr	120万lx・hr
光	性状	白色の粉末	変化なし	変化なし
	含量(%)	100*	100.6	100.1

※試験開始時を100とした残存率で表示

2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

1. 試験方法

崩壊懸濁試験：

ディスペンサー内に錠剤 1 個を入れ、55℃の温湯 20mL を吸い取り 5 分間自然放置した。5 分後にディスペンサーを 90 度で 15 往復横転し、崩壊・懸濁の状況を確認した。5 分後に崩壊しない場合、さらに 5 分間放置後同様の操作を行った。10 分間放置しても崩壊・懸濁しない場合、錠剤を粉碎してから同様に試験を行った。

通過性試験：

崩壊懸濁試験で得られた懸濁液を経管栄養チューブの注入端より 2~3mL/秒の速度で注入し、チューブのサイズ、8、12、14、16、18 フレンチ（以下 Fr.とする）において通過する最小経管栄養チューブのサイズを確認した。

2. 試験結果

表1 崩壊懸濁試験結果

品目名	崩壊・懸濁状況
モサプリドクエン酸塩錠2.5mg「JG」	5分の時点で崩壊・懸濁した
モサプリドクエン酸塩錠5mg「JG」	5分の時点で崩壊・懸濁した

表2 通過性試験結果

品目名	最小通過サイズ
モサプリドクエン酸塩錠2.5mg「JG」	8Fr.チューブを通過した
モサプリドクエン酸塩錠5mg「JG」	8Fr.チューブを通過した

3. 備考

本製剤は、マクロゴール 6000 を含有する製剤である。マクロゴール 6000 含有の製剤は、マクロゴール 6000 が 56~61℃で凝固するため温度を高くしすぎるとチューブに入る前に固まってしまう可能性が考えられる。

2. その他の関連資料

該当資料なし

Memo

Memo

Memo



日本ジェネリック株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号